

令和2年10月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和2年10月29日（木）午後13時～午後13時35分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞、読売新聞、毎日新聞、河北新報、
置賜日報、YBC、YTS

<市> 市長、秘書広報課長、担当者、スポーツ課長

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 令和3年度の予算編成作業が本格化すると思います。コロナ禍の影響で、そうとう厳しい内容になると予測されます。現時点での市長のお考えはいかがですか。
- (2) 米沢市営プールの「飛び込みプール」廃止方針について、市長の見解、個人的な思いや考えがあれば教えてください。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和2年度10月の定例記者会見を開催させていただきます。初めに、市長から発言がございます。

○市長

はい。この度のご質問につきましては2点ございました。1点目は、「令和3年度の予算編成作業が本格化すると思います。コロナ禍の影響で、そうとう厳しい内容になると予測されます。現時点での市長のお考えはいかがですか。」と、もう1点は「米沢市営プールの『飛び込みプール』廃止方針について、市長の見解、個人的な思いや考えがあれば教えてください。」と、この2点であります。

まず1点目の来年度の予算編成であります。本当に相当厳しい状況に見舞われるのではないかなと思っております。コロナの感染防止を図ってまいりましたし、市民生活と地域経済を守るため様々な施策を、国の臨時交付金を活用しながら行ってきましたが、それでも不足する財源については、一般財源で対応せざるを得ないという状況にあります。そういったことを踏まえて、来年度以降も感染拡大の影響による市税の減少や感染症対策に要する経費の増加なども見込まれますので、財源不足の拡大が

懸念されているところであります。

このような中にありまして、引き続き令和3年度の新型コロナウイルス感染防止対策に努めるとともに、市民生活と地域経済を守りぬくことが最優先課題であると考えております。そこで、10月14日、令和3年度の予算編成方針の説明会を開催したところであります。そういった中であって、今後どのように予算編成作業を進めていくかではありますが、既存事業の廃止などの抜本的な見直しのほか、2番目としまして米沢市まちづくり総合計画の後期計画が始まる訳であります。こういったものに掲げた施策であっても、事業の先送りや縮小などを含めて検討し、限られた財源の中で新型コロナウイルス感染症対策の財源を確保していく必要があると考えているところであります。今後も地方が新型コロナウイルスの対策を行いながらも、安定的な財政運営を行う事ができるよう、引き続き必要な財政措置を講じていただけるように、機会を捉えながら国へ要望をしてまいりたいと思っております。

現在の令和3年度の予算編成については、今申し上げたことを踏まえて、粛々と予算編成作業に当たっていかねばならないものと、このように考えております。

次に、米沢市営プールの飛び込みプールの廃止方針であります。飛び込みプールの廃止方針につきましては、現在、国の方針のもとに、各市町村は公共施設の管理計画20%削減を要請されている訳であります。そして、本市においても、その公共施設管理計画を、今米沢市が保有しているそれぞれの公共施設について、今後令和17年度まで、どのように管理、運営、あるいは統合廃止等をやっていくかということについて現在検討しているところであります。そういった中にありまして、令和17年度までの個別施設の策定に向けた基本方針を議会に説明させていただいたところであります。その中で、飛び込みプールが廃止ということになっている訳ではありますが、この件につきましては、そういった管理、運営においてどのように進めていくかということで、基本的な考え方を示させていただいたと考えております。ただ、いつどのような段階で廃止するというような事には、まだ至っておりません。今後とも色々な関係団体と協議をしながらではありますが、やはり全ての公共施設などについては、持続可能なまちづくりを進めるにあたって、公共施設の統廃合も必要不可欠となってきますが、施設の廃止にあたっては、関係される皆様方のご理解をいただかなければなりません。丁寧にご説明しながら進めていく必要があると考えておりますので、今回の飛び込み台につきましても、今後、協議関係者としてしっかりと話し合いを行いながら、よりよい方向を目指して進めてまいりたいと考えているところであります。

1番目、2番目のご質問について考えを述べさせていただきました。あとは質問を受ける形で答弁をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上となります。これ以降の進行につきましては幹事社にお渡しをしますのでよろしくお願いいたします。

○幹事社

よろしくお願いいたします。財政上について、法人税の減額がかなり心配ではないかな

と思っているのですが、パーセンテージ的な見直しなどはお考えありますか。

○市長

法人税、市民税につきましても、どのくらいの割合で減額するという基礎的な数字がまだ出ておりませんので、今現在算定することは非常に難しいなど。ただ、今の景気、経済動向を見てみますと、もっと落ち込むことは予想されます。

○幹事社

市民の一部の方からは、市役所、病院、学校を建てるといった大規模な事業をどれかひとつ減らさないといけないのではないかという話もありました。そのようなお考えはありますか。

○市長

病院建設につきましては業者も確定した訳でありまして、そういった方向で進んでいきたいと考えております。ただその後のことにつきましては先ほど申し上げましたように、若干遅れるものも出てくるかと思えます。ただ学校関係の統廃合をどうするかについて、いつ、どうするというような判断には至っていないと。今までの予定どおりの進め方をやっていきますが、実際建設の年次については、今後財政状況を見ながらということとは当然考えていく必要があると考えております。

○幹事社

飛び込みプールについてなのですが、県から「やってくれ」と言われて建てたものだと思うのですが、年間の維持管理費というのはかなり高いのではないかなという気がするのですが。

○スポーツ課長

プール全体になりますが、1, 200万円ほどの維持経費になります。

○市長

維持経費はその程度の額になりますが、もう30年経ちますので、大規模な改修とかそういったものも今後必要になってくるのではないかなと思っております。

○幹事社

改修する前に廃止するという方向性はあるですか。

○市長

公共施設管理計画では出ていますが、いつどうするのかということにつきましては先ほど申し上げましたように、まだ決めていないというのが現状です。

○幹事社

私からは以上です。他に質問あればお願いします。

○記者

予算関係のことなのですが、市長がおっしゃったとおり厳しい状態ということで、メリハリがたぶん大事になってくると思うのですが、削らなければいけないところが沢山ある中で、来年度以降「これにはしっかりお金を使わなければいけないな」というように思っちゃるところが、コロナ対策以外のところで何かあればお願いします。

○市長

1つは、どうしても延期といたしますか、事業実施を遅らせざるを得ない部分もあるかと思えます。ただ、先ほども若干触れましたが、市立病院と民間病院との医療連携というものは、これは待ったなしだと思っております。そこはしっかりと、市民の要望も高いところでもありますし、また、コロナの感染症について、そういった面では医療の充実というものは市民の方々が求めているところでもありますので、ここはしっかりと財源を確保しながら、あるいは国、県の支援もより一層強く要望しながら、進めていかなければならないものと、これは間違いなく確定して進めていかなければならないものについては、医療連携病院の建設については間違いなく進めていかなければならないものと、このように考えております。

○記者

総合計画に掲げたものについても、かなり大胆に削らないといけないという認識を持たれていますか。

○市長

今後どこまで来年度の租税収入を見込むことができるかということと、あと国の交付税関係で、地方財政計画もまだ出ていない状況ですので、どのくらい国から交付税が入ってくるかとか、そういったことは今の段階では判断しきれない部分があります。そういったものも見ながら、そして歳入をどうやって増やしていくかと、これもコロナで影響されるのかもしれませんが、ふるさと納税関係の歳入をどうしたら増やしていけるかということについては、担当にも、色々アイデアを考えて、少しでも多くのふるさと納税をやっていただけるような商品づくりというものを考えてほしいというような指示をしております。

○記者

山形県知事選挙について、市長はどのような応援のスタンスでしょうか。

○市長

今のところはどちらとも決めていません。

○記者

置賜の中でも、現職の知事をしっかり応援するとおっしゃっている首長さんもおられるようですが、一方で新人のほうの選対事務局長は、市長選の時の事務局長が就かれているかと承知しております。それは何か関係はありますか。

○市長

特別ありません。それは私の後援会でも色々立場がございますので、一切私は当然従来どおりという判断で今後対応していきたいと思っております。

○記者

オクトーバーランについて、市長も大分好成績というか、ランキング上のほうにいらっしゃるようなのですが、一応1か月ということで、米沢市としてある程度の成果というか盛り上がりというものもあったかと思えます。それをどう捉えてらっしゃるのかと、単発だけでなく、これからの健康長寿のまちづくりにどう活かせると認識

しているのかについてお聞かせください。

○市長

この度の「オクトーバーラン&ウォーク 2020」、市町村全部が参加したわけではないのですが、参加した自治体の参加人数を見ますと、米沢は5本の指に入るくらいに多い人数が参加しております。上位成績のほうで1位、2位というのは本当に少ない人数で、それこそそういったものに関心のある方たちで参加して対応しておりますので、相当上位のほうに来ているまちがあるようです。ただ米沢市は今申し上げましたように今回本当に参加者が多かったということで、そのことについては私自身大変うれしく思っております。そういう事でありますので、私も登録した以上少しでも頑張らなければならないということで、今山形県で第2位です。もちろん米沢市でも第2位ですが、山形県では米沢市の方がトップですね。トップを競うということではないにしても、その位多くの市民の方に参加していただいている以上、市長も参加したならば見本を示すということで、あと残り2日となりましたが、頑張っているというのが現状です。そして今後、こういったことを健康長寿のまちづくりにどのように形づけていくかということが大きな課題になってくるのかなと思っております。色々な機会を通して常に言っているのは、とにかく体を動かしましょうと、会合とかそういったところで言っておりますので、保険会社さんとの協定とか、あるいはスポーツ運動品メーカーとの協定も結んでおりますので、そういったところとタイアップして、オクトーバーラン&ウォークのような取り組みをして、運動やスポーツを通した市民の健康づくりに努めて、体を動かすことに繋げていきたいと考えております。

○記者

結果が見えるというか、目標があるというのがやる気になる、モチベーションにつながると思うのですが、他の自治体だと何歳以上の人に万歩計を配っていたりするようなのですが、そういう新しいことを、これを機に出来ないかなと思うのですが。

○市長

そうですね。今回のオクトーバーラン&ウォークも、米沢市としても、参加して実際やっている本部からの商品も色々あるのですが、米沢市はスポーツ課で独自に参加賞なども準備しているようでありますので、こういったことを今後どういったように充実させていくかということになってくるのかなと思います。まず終わった結果を見ながら、今後どうしようかということについても話をしていきたいと思います。

○記者

ありがとうございます。

○秘書広報課長

それではこれで令和2年度10月の定例記者会見を終了させていただきます。

○市長

どうもありがとうございました。